

# 白河市立表郷小学校 第5学年2組 道徳科学習指導案

時間：令和3年 9月13日（月） 第5校時

場所：イングリッシュルーム

- 1 主題名 けんきよな心で 【B-(11) 相互理解、寛容】
- 2 教材名 「約束」（光文書院「小学道徳 ゆたかな心 5年」）
- 3 主題設定の理由
  - (1) 子どもの実態について

## (略)

日常の子どもの姿とアンケートから、「相手が嫌だと思ふことはしない」ということは大切だとわかっていながらも、ネット上で、相手が傷つく言葉を言ったり、グループから仲間はずれにしたりするなど、相手が見えない場面では、「自分がやりたいことを実現する」姿があると教師は捉えている。さらに「不本意」という状況になり、相手に対して怒りを感じた時に、相手の立場や気持ちを考えずに自分本位で行動する姿もある。これは、相手の気持ちよりも自分の気持ちを優先して感情を表してしまうという「この時期ならではの」「ネットの世界ならではの」子どもの実態だと考える。そこで、この把握した実態を生かして授業を構想することで自分と同じように他者を尊重する心を育み、相手が置かれている状況を自分のこととして考える子どもを育てたい。

### (2) ねらいとする道徳的価値と主題について

自分の意見を相手に伝えずにすれちがったり、自分勝手なものの考え方で相手を傷つけたりした結果、人間関係が崩れていくことがある。人間関係を円滑にしていくためには、相手の立場に立って考えることや相手が置かれている状況を自分のこととして考えることが必要である。また、自分のことのように考えることで、謙虚さと寛容さが生まれ、相手に対して広い心で接することができる。さらに、情報化社会においては、顔の見えないコミュニケーションが多くなるため、この謙虚さと寛容さがより必要となる。

### (3) 教材について

本時で扱う教材には、結衣と一緒に図書館に行く約束をしていた陽菜が、祖母の事情で約束を果たせない結衣について、約束を破られたことをグループトークに書き込んだ後、事情を知り、謝る場面が描かれている。教材の中の「約束を破られた後の場面」に着目し、中心場面として位置付けることで、自分事として捉え、多様な価値観を引き出すことができると考える。さらに、「相手の事情を聞き、はっとさせられる場面」を扱うことで、自分の気持ちを優先して行動するのではなく、相手の気持ちを考えることの大切さに気付かせたい。

### (4) 指導について

指導にあたっては、これまでの経験から許せないと思った経験を想起させることで、登場人物が約束を破られた状況での行為について、自分事と重ねて考えやすいようにする。結衣のことを許せるかどうか、ネームプレートを用いて自他の考えをきっかけに話し合っていく。さらに、陽菜が結衣の事情を知り、陽菜が謝るまでの心情を考え、陽菜に足りなかった「相手の事情を考えずに、自分の感情だけで行動してしまったこと」「感情の勢いでインターネット上のグループトークに書き込み、拡散してしまったこと」に気付かせ、自分にも同様のことがあるかもしれないこととして、広い心で受け止めることの大切さを考えることができるようにしたい。

## 5 本時のねらい

謙虚な心を持ち、どのような状況でも相手の立場を考え、広い心で接しようとする心情を育てる。

【B-(11)】

6 学習過程

学習活動・内容	教師の働きかけ ※評価
<p>(1) 事前にとったアンケートから、自分だったら許せるか許せないかとその理由を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>給食着を着るために入れ物の中を探していたら、自分の机の上に置いてあったこと。</li> </ul> <p>(2) 教材をもとに話し合う。</p> <p>① 図書館から家に帰り、家族を待っている時の陽菜の結衣に対する気持ち (中心発問)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>約束を破るなんてひどい。</li> <li>何かあったのかもしれない。</li> <li>自分にも、そういう時がある。</li> </ul> <p>② 結衣の事情を知って心臓がドキドキした時の陽菜の気持ち</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相手の話をしっかり聞けば良かった。</li> <li>グループトークに書き込みをしてしまった。</li> <li>自分勝手なことをしてしまった。</li> </ul> <p>③ 「もういいよ」と言った結衣の気持ち</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分も悪かった。</li> <li>嫌な思いをさせてしまった。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>視点1 情報モラルに関する子どもの実態やアンケートを生かした問題場面の設定・発問構成</b></p> <p>事前にとったアンケート中から、特に給食着を着ようとした時に起きた経験を話し合う。そうすることで「相互理解、寛容」について「自分事」として捉える素地をつくと共に、自分と友達の価値観の違いに気付くことができるようにする。</p> </div> <p>○ 教材を「陽菜が約束したことを破られ、グループトークへ書き込みをする場面」と「結衣の状況を知り相手に謝る場面」の2つの大きな場面として分括して子どもに提示していく。そうすることで、約束を破られた状況と行為や状況を知った時の行動について十分に考えることができるようにする。</p> <p>○ 陽菜は結衣に対してどう思っているかを考えさせ、「許せる」「許せない」のどの位置にあたるかとその理由をノートに書かせる。さらに、ネームプレートを黒板のグラデーションの中に置かせ、その位置にある理由を話し合わせる。</p> <p>○ 陽菜が涙を流しながら何度も謝るという部分に着目させ、陽菜の中にどんな後悔の気持ちが生まれたのかを考えさせるようにすることで、相手の立場を理解することが大切だということに気付かせる。</p> <p>○ グループトークに書き込みをしたことについて、行為としては間違っただが、それほどの怒りだったことを共有することで、メディアの扱い方で大切なことを考えることができるようにする。</p> <p>○ 「もういいよ」について、陽菜に対する諦めの気持ちなのかどうかを子どもに問いかけることで、「寛容な気持ち」がこめられていることに気付かせる。</p>
<p>(3) 自分の生活や内面を見つめ直し、これからのよりよい自分を思い描く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相手の立場に立って考える。</li> <li>その時の気持ちだけで行動しない。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>視点2 これからの生活につなげる学習の工夫</b></p> <p>「これから人と関わる時、どのような気持ちを大切にしたいか」を問い、書かせることで「相互理解、寛容」について、これからの生活につなげることができるようにする。</p> </div> <p>※ 謙虚な心を持ち、どのような状況でも相手の立場を考えることの大切さ・難しさを自分事として深めているか。(記述、発言)</p>

# 白河市立表郷小学校 第6学年2組 学級活動(2)学習指導案

時間：令和4年 1月21日(金) 5校時

場所：イングリッシュルーム

## 1 題材 「情報機器のよりよい使い方を考えよう」

【学級活動(2)ウ 心身共に健康で安全な生活態度の形成】

## 2 題材について

### (1) 児童の実態(略)

### (2) 題材設定の理由

多くの児童が情報機器に触れる機会があり、自宅での多くの時間を情報機器に触れている。また、GIGAスクール構想により、1人1台端末が導入された。本校では現在は授業での使用がメインで、持ち帰りについてはまだ本格的には行っていない。今後、持ち帰りが本格的に始まり、自宅でも使用するようになったときを想定し、「使いすぎ」という視点から使用時間について考える必要があると思い、今回の題材を設定した。

### (3) 指導観

本時の授業では、特に「使いすぎ」という視点に焦点を当てて情報機器の使い方を考えていく。はじめに、情報機器の使い方の例を提示し、2つの使い方の問題点を考えることで、学習であれば情報機器を長時間使っても良いのか、短時間であれば使う時間が遅い時間でもよいのかなど、使用時間だけで判断することは難しいということを自覚させる。さらに、なぜその使い方がいけないのかという理由についても考えることで、課題意識を高めることができるようにする。その後、つい長時間使ってしまう場面や理由を追求しながら、誘惑や自分の弱い心に負けず、時間を上手に活用しながら情報機器と付き合いしていくことが大切であることを理解し、自分の時間の使い方について改めて振り返るという授業を展開する。授業後には、家の人と自分の時間の使い方に関して話し、コメントをもらうことで、親子で使い方を改めて考える機会をつくとともに、認識のずれをなくしたり、情報機器との付き合い方に関する意識が高まったりするようにする。また、児童の中には発表や話をするのが苦手という子がいる。その児童も話し合いに参加することができるように、事前のアンケートを活用し振り返りながら話し合うことで、自分の意見や考えをもつことができるようにする。


## 3 評価基準

観点	よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価基準	自己の生活上の課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、よりよい生活を送るための必要な知識や行動の仕方を身に付けている。	自己の生活上の課題に気付き、多様な意見や考え方を基に、自分の課題に応じた解決方法を意思決定し、実践している。	自己の生活をよりよくするために、自己の生活上の課題の解決に向けて粘り強く取り組もうとしている。

4 本時の目標

情報機器とのよりよい付き合い方を理解し、自分自身の生活の中で、心身に安全で健康的な情報機器の使い方を考えることができる。

5 学習過程

	学習内容・活動	時間	○指導上の留意点 □評価
導入 (つかむ)	<p>1 これまでのタブレットなどの使い方を振り返り、本時のめあてをつかむ</p> <p>(1) 事前アンケートの結果、1日の時間の使い方の表からこれまでの自分の実態を振り返る。</p> <p>例) ・1日3時間使用 →内容は学習に関する使用。 寝る時間が遅くなっている。</p> <p>・1日2時間使用 →内容はネットゲームのみ。</p> <p>(2) 本時のめあてをつかむ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>どのように使えばよいのかな？</p> </div>	10分	<p>○ 提示した表の「情報機器を使用している時間」に色を塗りながら考えさせることで、視覚的に捉えることができるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>視点1</b> 情報モラルに関する子どもの実態やアンケートを生かした発問・問題構成</p> <p>事前アンケートの結果から1日の時間の使い方・内容について、自分の生活を思い返し、「自分はどうか?」と振り返らせる。その中で子ども達の発言やつぶやきなどを生かし、「使い過ぎと感じる時間には個人差がある」「時間だけでは使い過ぎか判断できない」ことに気付くことができるようにする。</p> </div>
展開 (さぐる・見つける)	<p>2 使いすぎに繋がる問題点について考える</p> <p>(1) ゲームなどをやりすぎてしまうのはなぜなのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境的な問題</li> <li>・心理的な問題</li> <li>・対人的な問題</li> </ul> <p>(2) 長時間の使用による悪影響について考える。</p> <p>3 よりよい使い方について話し合う</p> <p>(1) どんな使い方が望ましいと考えられるのかを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長時間使うと、目が悪くなったり、寝る時間が遅くなってしまったりして、健康に悪影響。</li> <li>・時間は短くても、やる時間が遅くては寝不足になってしまう。</li> </ul> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>使う時間帯や内容、やるべきことを考えて時間の使い方を考えることが大切。</p> </div>	25分 (10)  (15)	<p>○ 事前アンケートの結果から、使い過ぎにつながる点を短冊に書き、分類して提示していく。その上で、「どんなグループに分けられているのか」を子ども達に問う。そうすることで、やり過ぎてしまう要因について理解を深めることができるようにする。</p> <p>○ 情報機器を使用した後に感じた症状についてのアンケート結果から、長時間使用した時との関連性に発問を通して気付くことができるようにする。</p> <p>○ アンケートの結果も振り返りながら、長時間の使用だけが使いすぎではないということを意識させ、グループごとに考えられるようにする。</p> <p>○ グループでの話し合いにより、一人では思いつかなかった考えなどにも触れることができるようにする。</p>
終末 (決める)	<p>4 これからの自分の使い方について考える。</p> <p>(1) 放課後の生活予定表を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何の予定から立て始めるか。</li> <li>・自由な時間はどのように使うか。</li> </ul>	10分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>視点2</b> これからの生活につながる学習の工夫</p> <p>これまで記録してきた家庭学習カードで、自分の放課後の過ごし方を振り返り、自分の生活の中から課題を見つけて、その点を中心に考えられるようにする。</p> </div> <p>○ 予定を立てるのに悩んでいる児童がいる時には、課題となる点や優先順位を一緒に考える。</p> <p>○ 立てた予定表は家庭に持ち帰り、保護者からコメントをもらうように伝える。</p> <p>□ 使い過ぎの問題点を理解し、よりよい使い方について自分の生活の中で出来る事を具体的に考えているか。(ワークシート、発言)</p>

○ 自分の時間の使い方を考えよう（スポ少や習い事がない平日）

15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 1 2 3 4 5 6 7 8 9

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

**工夫したポイント**

**お家の人から**